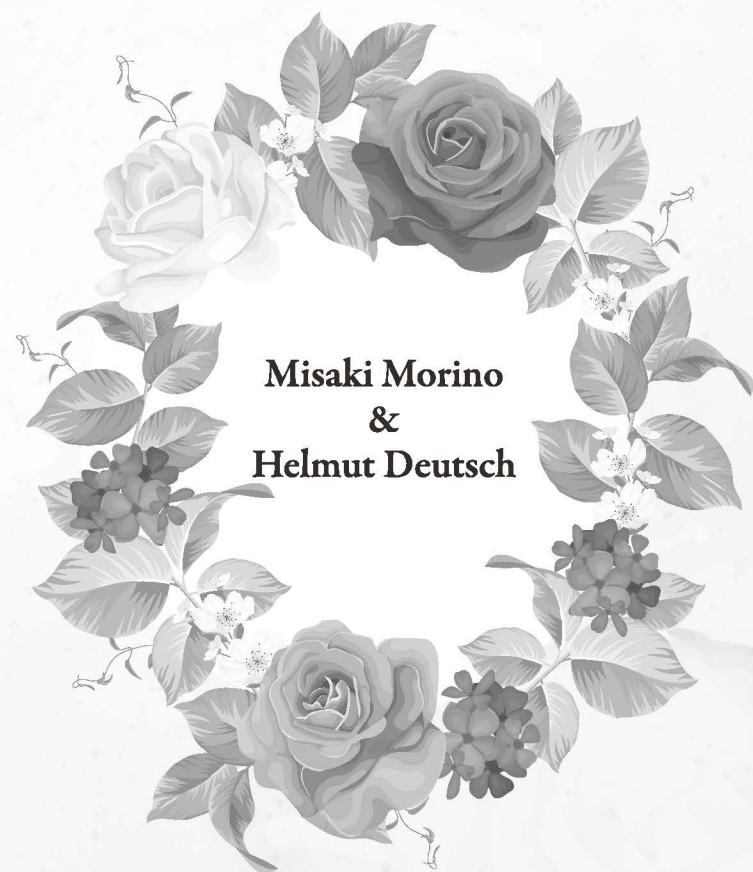




若き新星とレジェンドが紡ぐ、敬虔なる愛の詩
～愛しなさい、愛しうる限り～

森野美咲 & ヘルムート・ドイチュ

至高のドイツ歌曲

Soprano: Misaki Morino

Piano: Helmut Deutsch

2025年11月21日(金)19:00開演
第一生命ホール

後援: オーストリア大使館観光局

公演マネジメント: ジャパン・アーツ

リサイタルに寄せて

2011年、ウィーン国立音楽大学修士課程「歌曲・宗教曲」科に入学しました。

22歳、師事したのは宮廷歌手ガブリエレ・フォンターナ先生。今日、彼女のかつての師でもあったヘルムート・ドイチュさんが来日し、共演が叶います!「私は孫弟子ですね」と言ったら笑っていらした先生。15年前の自分には想像もできなかった、夢のような瞬間です。

たった1ページに込められた、詩人と作曲家の生み出す結晶。歌曲は私にとって、深い海の神秘のようで、無限に広がる世界のようで、目の前のたんぽぽのようで、心の深いところでじんわりと支えてくれるような存在です。今回はLiebesstrauß“愛の花束”と題して、花と乙女、そして愛にちなんだ作品を集めました。プログラムには対訳ではなく、詩のイメージを短くまとめたものを載せました。小曲を連ね、お話のように繋げていくのが歌曲リサイタルの醍醐味、その大きな流れを味わっていただけましたら嬉しいです。

みなさまと本日のリサイタルを通じて、特別な時間を共有できることに心からの感謝をこめて

森野美咲

Liebesstrauß 愛の花束 ～愛しなさい、愛しうる限り～



第一部

Richard Strauss | R. シュトラウス

Ständchen (Schack) Op.17-2
セレナーデ

Rote Rosen (Stieler)
赤いバラ

Ich schwebe (Henckell) Op.48-2
私は漂う

Das Rosenband (Klopstock) Op.36-1
薔薇のリボン

Freundliche Vision (Bierbaum) Op.48-1
やさしき幻影

Kling! (Henckell) Op.48-3
響け!

Mädchenblumen (F. Dahn) Op.22
《乙女の花》

Kornblumen
矢車菊

Mohnblumen
ポピー

Epheu
木づた

Wasserrose
睡蓮

8 Gedichte aus „Letzte Blätter“ (Gilm)
8つの詩による《最後の葉》より

Zueignung Op.10-1
献呈

Nichts! Op.10-2
何も!

Die Nacht Op.10-3
夜

Allerseelen Op.10-8
万霊節

休憩

第二部

Franz Liszt | F. リスト

Vergiftet sind meine Lieder (Heine) S.289
私の歌は毒入り

Freudvoll und Leidvoll (Goethe) S.280/2
喜びに満ち、哀しみに満ち

Es muss ein wunderbares sein (Redwitz) S.314
それはきっと素晴らしいこと

Hermann Reutter | H. ロイター

3 Ophelialieder (Shakespeare)
《3つのオフィーリアの歌》

Wie erkenn' ich dein Treulich
どうやって本当の恋人を見分けるの?

Auf morgen ist St. Valentinstag
明日は聖バレンタインの日

Sie trugen ihn auf der Bahre bloss
彼らはあの人をむき出しの棺へと運んでいった

Als mir dein Lied erklang (Brentano) Op.61-1
あなたの歌が響くとき

Franz Liszt | F. リスト

Hohe Liebe (Uhland) S.306
崇高な愛

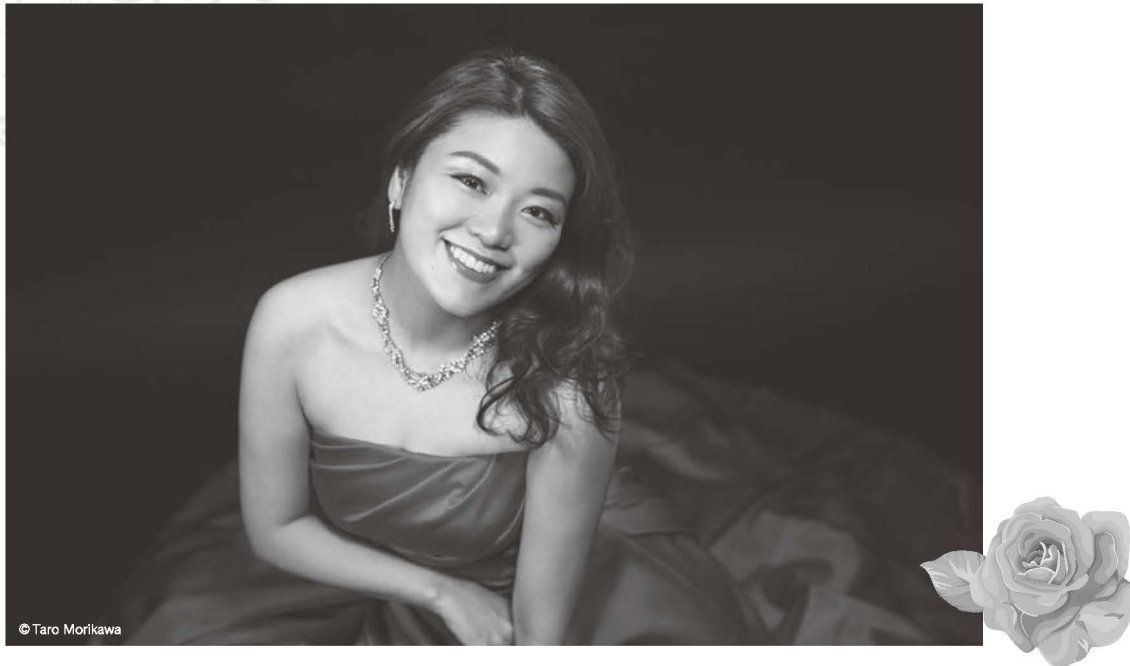
Seliger Tod (Redwitz) S.307
私は死んでいた

O lieb, so lang du lieben kannst (Freiligrath) S.298
愛しなさい、愛しうる限り



Profile

森野美咲 (ソプラノ) Misaki Morino (Soprano)



ウィーンを拠点に活躍する新進気鋭のソプラノ歌手。第27回ヨハネス・ブラームス国際コンクール声楽部門及び、第87回日本音楽コンクール声楽部門優勝。2019年ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団夏のアカデミー『偽の女庭師』題名役でオーストリアツアーを成功させ、2021年エットリンゲン音楽祭『こうもり』アデール役、2022年バーデン市立劇場『椿姫』題名役の他、近年は現代作品においての活躍もめざましく、2023年ジュネーブ大劇場『Electric Dreams』、2021/2022年ルツェルン劇場『Zolle』、『ペレラ〜煙の男』等、数多くの現代オペラに出演。連作歌曲「はじまり」など作詞活動にも力を入れている。国内では出光音楽賞を受賞の他、NHK交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団等の共演をはじめ、東急ジルベスターコンサート、NHKニューイヤーオペラコンサート、題名のない音楽会、プロ野球オールスター戦開幕式にて国歌独唱を務めるなど活躍の場を広げている。ローム ミュージック ファンデーション奨学生、文化庁派遣海外研修員。マルセンスポーツ・文化賞「文化大賞」、五島記念文化賞オペラ新人賞、岡山県芸術文化賞グランプリ、山陽新聞奨励賞、エネルギー文化・スポーツ財団 エネルギー賞受賞。岡山市出身。岡山城東高等学校、東京藝術大学を経て、ウィーン国立音楽大学修士課程首席修了。

YouTube Misaki's Channel 更新中。

オフィシャル・ウェブサイト <http://www.misakimorino.com/ja/>

Misaki Morino

ヘルムート・ドイチュ (ピアノ) Helmut Deutsch (Piano)



今代の世界最高峰の歌曲伴奏者として名を馳せるウィーン出身のピアニスト。ヘルマン・プライと共にキャリアをスタートさせ、世界中でリサイタルを成功させた。ヨナス・カウフマン、ディアナ・ダムラウなど現在のオペラ界で世界的に活躍する歌手たちが、ドイチュ氏を大いなる芸術家、そして力強い舞台上のパートナーとしてこぞって共演している。歌曲芸術において、忠実な考察と自らの芸術的なつながりを見出し、知性とユーモアを持って忘れ難い舞台を作り出してきた。これまでのディスク録音では数多くのレコード賞を受賞している。指導者としても、ウィーン国立音楽大学、ミュンヘン音楽・演劇大学等で長年教鞭を取り、数々のマスタークラスで後進の指導に当たっている。

オフィシャル・ウェブサイト <https://helmutdeutsch.at/>



Helmut Deutsch

石川亮子（音楽学、昭和音楽大学准教授）

ドイツ・ロマン派最後の作曲家と称されるリヒャルト・シュトラウス（1864～1949）は、『英雄の生涯』などの交響詩や、『サロメ』『ばらの騎士』といったオペラによって広く知られてきたため、歌曲作曲家としての側面はやや見えにくいかもしれない。シュトラウスは200曲を超える歌曲を残したが、その大部分は1883年から1906年に作曲された。自らピアノを弾き、ソプラノ歌手であった妻パウリーネ（二人は1894年に結婚した）が歌うための作品も少なくなく、オペラにおける女声へのこだわりは歌曲にも色濃く反映されている。

〈セレナーデ〉はシュトラウスの有名な歌曲のひとつ。夜、戸外で男性が愛を告白する詩でありながら、ソプラノ歌手たちによっても愛唱されてきたように、シュトラウスの歌曲の魅力は、女声の美しさが最大限に引き出されるよう書かれている点にある。〈赤いバラ〉は作品番号を持たない初期の一作で、若き日のロマン派的感性が息づく。〈私は漂う〉は『ピアバウムとヘンケルの詩による5つの歌曲』Op.48に収められている。3拍子のワルツのリズムに乗せた、軽やかでちょっぴり悲しい別れの曲。〈薔薇のリボン〉は同時代の詩人を好んだシュトラウスにとって珍しく、18世紀ドイツの詩人クロップシュトックの詩に基づく。同じく『5つの歌曲』Op.48から、〈やさしき幻影〉は円熟期の傑作のひとつとされるもので、愛する人とともに「平和に満ちた美しい場所へ」と歩む夢の世界を描く。また〈響け!〉では、輝かしいピアノのアルペジオとともに「響け! 歌え! 響け!」と魂の喜びを高らかに歌い上げる。

《乙女の花》は法学者であり小説家でもあったダーンの詩による歌曲集で、ワイマール宮廷歌劇

場の首席テノール歌手H.ブッフ＝ギーセンに献呈された。〈矢車菊〉は青——おだやかな優しさ。〈ポピー〉は赤——活発さの中に秘められた情熱。〈木づた〉は茶——心からの献身。〈睡蓮〉は白——幽玄で神秘的な美。四つの色のそれぞれの花に、四様の乙女の姿が重ねて描かれている。

《最後の葉》はシュトラウス最初の歌曲集とされるもので、ギルムの詩による8曲からなる。シュトラウスは当時、4歳年上のドーラ（有名なチェリストH.ヴィーハンの妻で、自らもピアニストであった）との出口のない恋愛に苦悩していた。純粋な愛を静かに捧げる〈献呈〉、ユーモラスで快活な〈何も!〉、森からやってきた夜が広がる〈夜〉。そして〈万霊節〉は、死者の記念日である11月2日に、失われた愛する人が「あの五月の日のように」戻って来て欲しいと祈る、シュトラウスのなかでもとりわけ美しい一曲として高く評価されている。

フランツ・リスト（1811～86）はピアノのヴァルトオーゾとして活躍した後、1848年にワイマールの宮廷楽長に就任。標題音楽の一ジャンルとして交響詩を創始するなど、ピアノ音楽とオーケストラ音楽に多大な貢献を残したことから、歌曲作曲家としての評価は近年になって高まってきたと言える。リストは生涯に約70～90曲の歌曲を創作。その多くは1840年代に書かれ、ワイマール時代に改訂されている。

〈私の歌は毒入り〉は「君が毒を盛ったんだ!」という切実な叫びとともに始まる。呪詛にあふれたハイネの恋愛詩を、リストは情熱的な声とピアノの掛け合いのなかに描き出す。〈喜びに満ち、哀しみに

満ち〉はゲーテの戯曲『エグモント』の第3幕で歌われる、エグモント伯爵の恋人クララ（クレールヒェン）の歌による。憧れと不安、痛みと喜び——揺れ動く心の内を、リストは1844年の第1稿、1848年の第2稿で全く異なる作品に作曲した。本日演奏されるのは、より簡素な中に高い精神性を実現したとされる第1稿（1860年頃に改訂）である。〈それはきっと素晴らしいこと〉は、リストの中でも特に人気の高い歌曲のひとつ。その魅力は心に響く簡潔さにあると言えるだろう。ある午後、離宮でアウグスタ（リストのパトロンであったザクセン＝ワイマール大公の次女で、後にドイツ皇帝ヴィルヘルム1世の妃となった）から詩を手渡され、その場で作曲されたというエピソードが伝えられている。

ヘルマン・ロイター（1900～85）はドイツのシュトゥットガルト生まれ。1923年にヒンデミットと親交を結び、作曲家、ピアニストとして多くの名歌手と共演。1952年からはシュトゥットガルト音楽大学でリートと作曲を教え、1956年には同大学学長に就任するなど、作曲、伴奏、教育の各分野で幅広く活躍した。

《3つのオフィーリアの歌》は1980年12月6日、シュトゥットガルト州立歌劇場で初演されたロイターのオペラ、『ハムレット』から派生した作品のひとつ。ハムレットはもう自分を愛していない——。その恋人が自分の父親を殺してしまった——。狂乱したオフィーリアは、〈どうやって本当の恋人を見分けるの?〉と問いかけ、〈明日は聖バレンタインの日〉、そして花を手にして〈彼らはあの人をむき出しの棺へと運んでいった〉と歌い続ける。

〈あなたの歌が響くとき〉は「ブレンターノの詩に

よる3つの歌曲』（1947）に収載。ヒンデミットよりも抒情的で、シューベルトやブラームスに近いと評されるロイターの作風がよく表れている。

リストのピアノ曲の中でも抜群の人気と知名度を誇る「愛の夢 第3番」は、実は『愛の夢——3つのノクターン』（1850）として出版された作品の一曲。これらはもともと別の機会に作曲された歌曲をまとめてピアノ独奏曲にアレンジしたもので、本日は原曲となった3つの歌曲が演奏される。

〈崇高な愛〉はウーラントの詩により、「地上の喜びを喜んで捨て」と神への信仰を歌う。〈私は死んでいた〉も同じくウーラントの詩に基づく、物思いに沈みながらも情熱が交錯する愛の歌。一方、有名な〈愛しなさい、愛しうる限り〉はフライリヒャートの詩による。恋愛ではなく、生きることは愛すること、すなわち人間愛を歌い上げている点に注目したい。



歌詞意識

セレナーデ *Ständchen*

ドアを開けて、こっそり庭に出ておいで、かわいい娘！
菩提樹の下でキスしよう 誰もが眠る中、愛だけが目覚めている
明日の朝バラが目覚めたら、この夜の喜びで輝くだろう

赤いバラ *Rote Rosen*

君がくれた赤いバラを覚えているかい？
白い首すじ、柔らかな手、ぼくたちが一つになった、あの庭を？

私は漂う *Ich schwebe*

わたし、まるで天使の羽の上で、地に足がつかないみたい！
恋人たちの名残惜しいあいさつみたい、ふわふわと夢の中へ…

ばら 薔薇のリボン *Das Rosenband*

春の木陰にまどろむあの娘に、薔薇のリボンを結んだ
ぼくは彼女をじっと見つめた その時、ぼくの人生は結ばれた
彼女はぼくをじっと見つめた その時、彼女の人生も結ばれた

やさしき幻影 *Freundliche Vision*

眠っていないとき、確かに白昼夢を見た
マーガレットが咲きみだれ 茂みの奥には白い家
平和に満ちた美しい場所へ 私を愛してくれる人と一緒に 歩いてゆくのを

響け！ *Kling!*

響け！ -歌え！ -響け！
荒れ狂う怒りの時代に引き裂かれぬ魂よ！
心の覆いを外せ 内なる声よ 枯れ野にもまた花が咲くと！

《乙女の花》 *Mädchenblumen*

矢車菊 *Kornblumen*

青い瞳をした優しい子 つつましく 澄んだ宝石のような心
種まきの後の畑に吹く たおやかで敬虔な タベのそよ風

ポピー *Mohnblumen*

丸くって、真っ赤で元気いっぱい 小麦肌でご機嫌
笑顔の下に涙を隠し からかいの裏は優しさでいっぱい
でも急にキスしたら、びっくりして弾け飛んじゃうから気をつけて！

木づた *Epheu*

うるんだこげ茶のバンビの瞳 飾りけのないすっきりとした花
一人では立つこともできず 最初に身を預けた木に一生を捧げる
一生に一度だけ咲く、稀有な花

睡蓮 *Wasserrose*

月明かりに花ひらく 高嶺の花
池の周りには蛾が群がり 白鳥に守られる
夜の巻き髪の乙女 この地に捕らえられた妖精

《最後の葉》 *Letzte Blätter*

献呈 *Zueignung*

君と離れるとこんなにも苦しい 愛は心を病にする 君に感謝を
かつて自由気ままだった僕も、今や君に清められた 君に感謝を

何も！ *Nichts!*

僕の歌国の女王よ！ 彼女の瞳の色は？ 声は？
太陽が何なのか、知っているものはいないだろう？
僕も誰も、何も知らないんだ！ 何も！

夜 *Die Nacht*

夜は全ての色を奪ってゆく 川にきらめく銀も、大聖堂の屋根の黄金も
ああ、僕はおそろしい 夜が君をも奪ってしまうのではないかと

万霊節 *Allerseelen*

マツリカの花を飾り 愛の思い出を話そう
年に一度、死で分かたれた者たちの日
戻っておいで もう一度君を抱きしめさせて あの五月の日のように



私の歌は毒入り *Vergiftet sind meine Lieder*

君が毒を盛ったんだ!それ以外なんだっていうんだい!?
心にうじゃうじゃ蛇を飼ってるみたいだ! 僕も、愛する君もね!

喜びに満ち、哀しみに満ち *Freudvoll und Leidvoll*

懂れて、不安になる 痛みに喜び、死ぬほどに苦しむ
幸せなのは、ただ愛する魂だけ

それはきっと素晴らしいこと *Es muss ein wunderbares sein*

二つの魂が一つになり 喜びも悲しみも 分かち合って
最初のカスから死の時まで 愛のある言葉だけを伝えられたなら

《3つのオフィーリアの歌》3 *Ophelialieder*

どうやって本当の恋人を見分けるの? *Wie erkenn' ich dein Treulieb*

シルクハットのお帽子? それとも靴? あの人は死んだのよ
頭には緑 足元は石 死装束は白 涙も流さずお墓へ行くの

明日は聖バレンタインの日 *Auf morgen ist St. Valentinstag*

少女はドアを開けて、少女じゃなくなった。その不誠実な若い男は何をした?
「私と結婚するって言ったのに!」「結婚したさ、おまえがこのドアを開けなきゃな!」
-大丈夫、ぜんぶ上手くいくわ。でもわたし、あの人が死床に横たわってるのを見ると泣いてしまう。
ああ、馬車だわ! おやすみなさい! 女王様! -

彼らはあの人をむき出しの棺へと運んでいった *Sie trugen ihn auf der Bahre bloss*

ハイデルディ♪ 涙が棺に落ちる 勿忘草わすれなぐさにローズマリー
あなたにはスマイルをあげたかったけど、みんな枯れちゃった お父さんが死んだ時よ
祈りましょう 神様がみなさまと共にいらっしゃいますように



あなたの歌が響くとき *Als mir dein Lied erklang*

あなたの歌が響いた 決して忘れない
気ままな蝶々を従順な蜜蜂へ変えた 月も星も 瞬きまばた嘆いた
私の人生の中に あなたの歌が響いたとき

崇高な愛 *Hobe Liebe*

誰もが愛しい人の腕に溺れるが 私には一つの眼差しだけ でも私は誰よりも豊かだ
地上の喜びなど喜んで捨てよう 空を見上げる 輝く遠きところに 天が開かれている

私は死んでいた *Seliger Tod*

私は死んでいた 愛の喜びのもとに
あなたの腕の中に 横たえていた
あなたの口づけで目覚め あなたの瞳に天国を見た

愛しなさい、愛しうる限り *O lieb, so lang du lieben kannst*

愛しなさい、愛しうる限り 愛しなさい、愛したいだけ
その時はやってくる いつかその人の墓の前で泣く時が
愛しなさい あなたの心を震えさせ 高めてくれる人を
愛を持ちなさい 心を閉ざした人にできることは何でも
その人を幸せにしないで 決して悲しませないで
そして口にする言葉には気をつけなさい
そんなつもりではなかったと言っても
その人は悲しみ、遠くに行ってしまうから

愛しなさい、愛しうる限り 愛しなさい、愛したいだけ

